



# みつやの里だより

(7/2現在 会員数594名)

発行日:令和7年7月2日

「サンフレッチェ広島」地域と密接に結びついています! 「みつやの里 サンフレッチェ広島サッカーアカデミー」が記事に (▽) /

プロスポーツ王国新時代

第1部 支える③

## 球団と密接 広島の日常

### 公共財産

「こっちにパス」。17日夜、J1サンフレッチェ広島の練習拠点、安芸高田市サッカー公園に小学生の音が響いた。同市のほか三次、広島市などから集まった5、6年生約90人。ユースの監督やコーチの教えでプレーを楽しんだ。

地域の指導者も交じる月1回のアカデミーは、安芸高田市の総合型地域スポーツクラブみつやの里がサンフレの協力を得て開催。中尾真紀事務局長(53)は「子どもたちが本当に楽しそう。貴重な経験をプレゼントしてもらっています」と喜ぶ。自治体にとってプロチームの存在は重要な地域

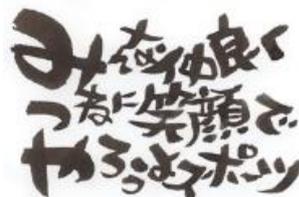


サンフレの練習拠点、安芸高田市サッカー公園でアカデミーに参加する小学生

資源だ。毛利元就の三本の矢が縁となる旧吉田町(現安芸高田市)とサンフレの交流。市にはユースの寮もあり、日本代表の駒野友一や槇野智章らが巣立ったまちな名は、

サンフレの3度のリーグ制覇でさらに広まった。人口3万人に満たない市を、サンフレがきっかけで訪れる人は多く、市政策企画課の黒田貢一課長は「切っても切り離せない関係。深め続けていきたい」という。「地域」の宝」との思いは住民にも。4月、大阪であったユースの試合には「市ふるさと応援の会」関西地区のメンバーが応援に駆け付け、触れ合った。広島ドラゴンフライズが、廿日市市と連携協定を結ぶなど、球団と自治体の親密さは広島の日常風景。住民も巻き込んだ深いつながりを誇るのは、庄原市や商工会議所など官民でつくる「庄原市カープ応援隊」だ。2004年、プロ野球は球界再編に揺れた。広島東洋カープ存続のため、集客に苦しむ球団を救おうと翌05年、旧市民球場の年間指定席40席を購入したのが始まり。マツダスタジアムとなった現在も継続。土井幹雄実行委員長(65)は「松田元オーナーから『苦しいときに助けてもらった庄原はよそと違うんじゃ』と言ってもらえる。カープは公共の財産ですよ」と語る。オフには毎年、若ゴイが市のイベントに赴き、交流を深める。自治体とのつながりは互いのメリットも生む。マツダスタジアムでは「わがまち魅力発信隊」と銘打ち、試合日のコンコースなどで特産品を販売し、観光案内を配布。大型ビジョンも使い、効果的なPRの場となる。今季は既に30以上の団体が参加。球団にとっては「ファンを広げ、球場に足を運んでもらうきっかけになれば」との期待もあり、互いに大きな存在となっている。(プロスポーツ王国新時代取材班)

2025年6月26日 中国新聞記載



発行

総合型地域スポーツクラブ みつやの里スポーツクラブ  
広島県安芸高田市吉田町相合 555-1 安芸高田市吉田運動公園内  
TEL 0826-42-2808 FAX 0826-42-1012